

林業・水産業

豊かな森林と三陸の海。自然を守り恵みを生かす、岩手の取り組み



県有模範林 盛岡市大志田(明治40～昭和16年頃)

①



出漁の様子(昭和30年代)

②

① 岩手の林業

藩政時代には、藩が管理する御山と、村や個人の管理の林野があり、これらの整理が行われた明治前期が岩手県林政の黎明期である。当時から県北では漆の生産が盛んで、県による椎茸栽培の奨励や炭焼きの巡回指導なども行われた。県産の南部桐や南部赤松は東京で好評を博したという。昭和24年に国県共同の林業普及指導事業が発足して以降は、林業に関する試験研究の推進や森林の保続培養にも力が入れられてきた。平成29(2017)年からは「いわて林業アカデミー」が開講し毎年15名以上の林業の担い手を輩出している。

昭和49(1974)年に松尾村(現:八幡平市)で「第25回全国植樹祭」が開催されて約50年。令和5(2023)年には陸前高田市にて「第73回全国植樹祭」を開催。

② 岩手の水産業

明治期の岩手では採介藻漁業や沿岸での漁が主で、マグロ、サケ、イカ、コンブ、ワカメなど多種にわたる水産物を生産していた。明治43(1910)年、水産振興を目的として県立水産学校内に岩手県水産試験場を設置。以来、遠洋漁業試験やカキ、ホタテなどの養殖の試験などが行われている。大正期には漁船の動力化により沖合漁業が隆盛となり、遠洋漁業が発展期を迎えた。戦後になり戦時中に敷かれた漁業の統制が解除されると、昭和24(1949)年に県水産部が設置され、県民への水産物の安定供給や漁業取締りがなされるようになった。現在は、東日本大震災津波で甚大な被害を受けた施設や設備等も概ね回復し、三陸の恵まれた漁業環境を生かした「つくり育てる漁業」を推進、水産資源の増大を図っている。

年表

明治28(1895)年	宮古鉾ヶ崎町組合立水産補習学校開校、本県最初の水産補習学校
明治35(1902)年	盛岡高等農林学校(現:岩手大学)開校
明治43(1910)年	宮古町にあった県立水産学校校舎に併設して水産試験場を創立
大正4(1915)年	本県の木炭生産量が初の全国1位達成
昭和11(1936)年	三陸地方防潮林造成事業開始
昭和22(1947)年	岩手県林業試験場設置
昭和30(1955)年	「キリ」を県花として発表
昭和39(1964)年	「キジ」を県の鳥として指定
昭和41(1966)年	「ナンブアカマツ」を県の木として決定
昭和49(1974)年	第25回全国植樹祭開催(松尾村(現:八幡平市))
昭和54(1979)年	岩手県内水面水産指導所、岩手県栽培漁業センター開所
昭和59(1984)年	第8回全国育樹祭開催(松尾村(現:八幡平市))
昭和61(1986)年	岩手県立水産科学館開館
昭和62(1987)年	岩手県北部栽培漁業センター開設
平成4(1992)年	三陸・海の博覧会開催、「南部さけ」を県の魚として決定
平成5(1993)年	岩手県林業技術センター開所
平成6(1994)年	岩手県水産技術センター開所
平成9(1997)年	第17回全国豊かな海づくり大会開催(大槌町)
平成18(2006)年	いわての森林づくり県民税導入
平成26(2014)年	岩手県栽培漁業協会が震災後初のアワビ種苗を出荷



昭和48年の様子



昭和13、14年釜石市に移転改築後の本館



説明文や年表に記載の日時と掲載画像の撮影時期は異なるものがあります。